

# 学びの楽しさを、指導しましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

**1年生「大きいかず」では、どのように学びの楽しさを指導したらよいのでしょうか？**

A

この単元は、「10よりおおきいかず」と同じような流れで指導していきます。事前準備として、トレイに同数の数え棒を用意しておきます。そして、子ども達一人一人に数えさせ、数え終わったら、数を発表させましょう。全員の答えが一つにならなかったら、どうやって数えれば間違いを無くせるかを考えさせましょう。正しい数え方を考えることが学びの楽しさにもつながります。楽しさと言うとゲームなどの楽しさがありますが、それは刹那的な楽しさです。正しい解答を得るまでには困難がついてきますので、この困難を乗り越えようと思えることが学びの楽しさと言えるでしょう。

数のかき方では、「10よりおおきいかず（20までの数）」との違いをしっかりとらえさせましょう。20までの数では、十の位が常に「1」でしたので、子ども達は十の位をあまり意識しなくてもよかったのですが、ここでは、十の位が「1から9まで」になりますので、十の位や一の位の部屋をつくらせるなど位取り記数法を意識させることが大切です。空位がある場合もありますので、0の指導をしっかりとしましょう。

100までの数では、P 134のような掲示物を作ることで、子ども達に量感をつかませることができます。P 135の表も並べて掲示し、教師が工夫した発問をすることで、

葉の数を数えさせることができますし、100マスのワークシートを用意しておけば、毎時間の初めに順序よくかかせる活動を取り入れることもできます。さらに、問2では、子ども同士で問題の出し合いをさせると、学びの楽しさを味わわせることができます。

P136の数の大小比較は、どの位を見て大小を判断するかという、思考力、判断力、表現力を問う学習です。おはじきゲームは指導例ですので、先生方の創意で行わせましょう。ここではゲームが学習の中心ではないので、問5では、答えとその理由をしっかりと表現させることが大切です。P137の問7や問8では、数がどんなきまりで並んでいるかを表現させましょう。

P138の100までの数字をみつける学習では、教科書の例を確認した後、地域の実態にあわせた指導をすると、学びの楽しさを味わわせることができます。さらにP139の買い物では、ひなたさんとだいちさんのお金の出し方を比較し、どれとどれが同じなのかを発表させ、同じ答えでも表現の仕方が違うことをつかませましょう。出し方をいろいろと考える中で「これ以上、出し方は無い」と判断させれば、4年生の調べ方や6年生の場合の数につながる、落ちや重なりがないという深い学びにもなります。

P140の100をこえる数では、106や113など120程度までの数を例にあげて、下2桁は1から99までの数え方と同じになることに気付かせます。そして、子ども達と一緒に、先に作成した100までの数の表の下部にP141のように付け加えていきましょう。さらに、この表がもっと下に長かったらどうなるかを予想させれば、2年生の100をこえる数へのなだらかな移行ができます。

